

第3章 第2次計画でめざすもの

1 計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念

本計画では、第1次計画に引き続き「豊かな心と、健康なからだを育む いきいき輝くまち 知立」を基本理念として掲げ、家庭、地域・団体などと行政が協働し、施策を推進します。

豊かな心と、健康なからだを育む

いきいき輝くまち 知立

2 基本目標

1. 食育で心を育もう

家族や仲間との楽しい食事は豊かな心を育みます。

また、食生活は自然の恵みや食に携わるさまざまな人の活動に支えられて成り立っています。食に関する体験などを通じて食に感謝する気持ち、思いやりの心を育てます。

2. 食育でからだを育もう

健康な生活を送るためには、栄養バランスのとれた食事を規則正しく摂ることが大切です。食に関する正しい知識や、適切な食習慣を身につけ、健康なからだを育てます。

3. 食を取り巻く環境を整えよう

環境にやさしい食生活をするのは市民一人ひとりの責務です。また、安全・安心な食品を見極め、食の安全を守ることも大切です。食と環境問題のつながりを周知し、周りの人たちとともに、良い食生活を送ることのできる環境をつくります。

第2次計画では、周知から実践へのステップアップを目指し、

「知ってるよ！」から「やってるよ！！」に向け、食育を推進します。

3 計画の体系

第1次計画の理念を引き継ぎつつ、第2次計画は、より実践に重きを置き、取り組みを重視した計画としました。指標についても、「朝食に野菜を食べている人の割合」等の新しい指標を設定しました。

基本目標	取り組みの方向
1. 食育で心を育もう	(1) 家族や仲間と食を楽しもう
	(2) 食べ物を大切にし、食への感謝の気持ちを育もう
	(3) 体験や交流を通して「食」への関心を高めよう
2. 食育でからだを育もう	(1) 正しい食習慣を身につけよう
	(2) 食事から健康づくりに取り組もう
3. 食を取り巻く環境を整えよう	(1) 食育を進める体制を整えよう
	(2) 安全・安心に食べよう
	(3) 環境に優しい食育を進めよう

【計画のキャッチフレーズ】

ち 地域の食材 **り** 料理に活かして

ふ ふるさとの味 いただきます！



2 目標値の設定

1 食育で心を育もう

■食育に関心を持っている人、実践している人の割合

「食育」の大切さを理解し、関心を持つことは食育を進める第一歩となります。食育への関心を深めるとともに、日常的に食育が行えるよう、実践している人を増やします。

■家での食事を楽しいと感じる人の割合

家族とコミュニケーションをとりながらの食事は食の楽しさを実感し、心の癒し・心の安定をもたらします。子どもの生活は多忙化しており、家族との食事の時間の確保が難しくなっていますが、家族団らんの大切さについて理解し、家族との食事が楽しいと感じる児童生徒を増やします。

■市民農園の整備区画数

市民に農業について理解と親しみを深め自然に触れ合える場の提供として、市民農園の充実に努めます。



指標	対象者	現状値 平成 25 年度	目標値 平成 36 年度
食育に関心を持っている人の割合 (*1)	市民	75.2%	90%
食育を実践している人の割合 (*2) 	市民	50.2%	90%
家での食事を楽しいと感じる人の割合 (*3) 	小学校 (5年生)	89.3%	90%
	中学校 (2年生)	76.6%	80%
市民農園の整備区画数		101 区画	110 区画

(*1) 市民アンケートで、食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した市民の割合

(*2) 市民アンケートで、食育を「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した市民の割合

(*3) 小中学生アンケートで、家での食事を「とても楽しい」「楽しい」と回答した小中学生の割合

2 食育でからだを育もう

■朝食を欠食する人の割合

朝食は脳の働きを活性化させ、1日元気に活動するために必要な食事です。朝食を食べることで1日の生活のリズムを整え、規則正しい生活習慣の確立を図るため、全ての年代において欠食を減らします。

■朝食に野菜を食べている人の割合

朝食を摂ることだけでなく、栄養バランスのとれた食事を摂るために、朝食に野菜を食べている人を増やします。

■よく噛んで食べる人の割合

よく噛むことは歯を健康に保つだけでなく、肥満予防や脳の活性化など全身の健康につながるため、よく噛んで食べる人を増やします。



第2次健康知立ともだち21計画と同じ指標



新指標

指標	対象	現状値 平成25年度	目標値 平成36年度
朝食を欠食する人の割合 (*1) 	園児	3.9%	0%
	小学校(5年生)	3.9%	0%
	中学校(2年生)	7.0%	3%
	20代	23.0%	15%
朝食に野菜を食べている人の割合 (*2) 	園児	28.7%	80%
	小学校(5年生)	36.1%	80%
	中学校(2年生)	30.1%	80%
	市民	34.7%	80%
よく噛んで食べる人の割合 (*3) 	小学校(5年生)	52.9%	70%
	中学校(2年生)	33.6%	70%
	市民	35.3%	70%

(*1) 子どもの生活状況アンケートで朝食を「時々食べる」「全く食べない」と回答した園児の割合

小中学生アンケートで、朝食を「週に1~3日食べる」「食べない」と回答した小中学生の割合

市民アンケートで、朝食を「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した市民の割合

(*2) 子どもの生活状況アンケートで朝食に野菜を「食べる」と回答した園児の割合

小中学生アンケートで、朝食で野菜を「毎日食べる」「週に4~6日食べる」と回答した小中学生の割合

市民アンケートで、朝食で野菜を「毎日食べる」「週に4~6日食べる」と回答した市民の割合

(*3) 小中学生アンケート、市民アンケートで、「よく噛んでいる」と回答した小中学生、市民の割合

3 食を取り巻く環境を整えよう

■食生活改善推進員の人数

地域に根ざした食育を効果的に推進するため、食生活改善推進員の人数を増やします。

■学校給食における愛知県内産の食材使用率

学校給食で地域の産物を多く活用することにより、地元でとれる食材やその生産などについて小中学生が関心や理解を深めることは、地域の食べ物を大切に作る心を育てます。学校給食における愛知県内産の食材使用率を増やします。

■愛知県産を意識して購入する人の割合

「地域で生産されたものを地域で消費する」地産地消は、食べ物をより身近に感じることで感謝する気持ちが芽生えます。また、輸送距離が短くなることで環境負荷の低減への効果や地域の農業の活性化、その土地の自然や文化など、食への学びを深める取り組みとしても期待されています。地産地消を推進し、愛知県産のものを意識して購入する人を増やします。



第2次健康知立ともだち21計画と同じ指標



新指標

指標	対象	現状値 平成25年度	目標値 平成36年度
食生活改善推進員の人数 		35人	40人
学校給食における愛知県内産の食材使用率		39.5%	45%
愛知県産のものを意識して購入する人の割合  (※1)	市民	32.8%	55%

(※1) 市民アンケートで、「愛知県産を意識して購入している」と回答した市民の割合

新たに追加した指標について



～新指標について～

【食育で心を育もう】

【食育を実践している人の割合】

第1次計画において、「周知」に重点を置いていましたが、第2次計画ではさらに一歩進んだ「実践」に重点を置いていくため追加しました。

【家での食事を楽しいと感じる人の割合】

家庭での楽しい食事が心に栄養を与え、豊かな心を育むことにつながります。また、家庭での食事は良い食生活を送る上での基盤となるため追加しました。

【食育でからだを育もう】

【朝食に野菜を食べている人の割合】

朝食を食べるだけではなく、栄養バランスのとれた食事にするとともに、1日の野菜摂取量を朝食で補っていくことを目指し追加しました。

【よく噛んで食べる人の割合】

よく噛んで食べることは歯の健康や肥満予防等に関わるため、追加しました。

【食を取り巻く環境を整えよう】

【愛知県産のものを意識して購入する人の割合】

愛知県産のものを意識して購入することにより、食への感謝を育み、環境負荷の低減等を目指し、追加しました。